

The front clinic

ザフロントクリニック

上野医院

鳥取県倉吉市

西洋医学と東洋医学を併用し 「痛みをとる」を目標に全人的医療を提供

2008年に開業した上野医院は、整形外科と漢方内科を標榜し、西洋医学と東洋医学を併用することで、「痛みがある人を治して帰す」ことを目標にしている。腰や肩など体の一部に現れた痛みを全身状態の不調の表れと考え、西洋医学的に局所的な治療をするだけでなく、東洋医学的な視点から生活習慣の改善を指導。全身を診てもらえる安心感から、高齢者を中心に患者が増加している。

救急医療の最前線で気づいた 東洋医学の実力 術後の漢方処方が症状改善に奏効

上野医院院長の上野力敏氏は、大阪八尾徳洲会総合病院消化器外科部長、大阪八尾医真会総合病院救急外科部長を歴任し、救急医療の最前線で診療を続けてきた。しかし、1999年に母親が亡くなり、地元の鳥取県へ帰郷したことで転機が訪れた。

「学生のころから『最高の外科医になりたい』という思いや、『臨床にいたい』という思いが強くありました。大学医局に入局せず徳洲会総合病院に就職したのも、自分のやりたいことをやっていきたいという気持ちからでした。出世にはまったく興味がありませんでした。外科や救急の現場にやりがいを感じていましたが、母が亡くなり、父が独りになったのを機に、鳥取の病院に戻ってきました。救急最前線を離れ緊急オペが無く、当直回数も少ない病院に変わったことで、自分の医療や将来について考える時間ができ、開業へとつながったと思います」と上野氏は振り返る。



「西洋医学と東洋医学の良さを生かした医療を提供したい」と語る上野力敏院長。

外科分野で関わる患者の中には、手技的には成功したものの、不調を訴え続ける人がいる。これらの患者への対応をどうすればよいかと考えるうち、上野氏は東洋医学に関心を持つようになったという。大阪時代から



西洋医学、東洋医学を身につけたスタッフ。



明るい笑顔と温かい対応で患者を迎える受付スタッフ。

救急医療で時間に追われる生活の中でも、少しずつ漢方の知識を身につけてきた。鳥取の病院で上野氏は、症状がなかなか改善しない事例に漢方薬を処方してみたところ、改善するケースが現れ始めた。

「こちらの病院で、外科的治療と漢方の併用を始めたところ、効果が現れるようになりました。けれども病院では、薬を一つ導入するにも会議が必要で、使える薬も限られるなどもどかしい部分もありました。そのころ私は40歳を少し過ぎたところで、今までの仕事のやり方でいいのかと考える時期でもありました。「いつまでも同じことはできない。次のステップに進む必要があるのではないか」とも感じていました。また、高齢の父は独り暮らしが難しくなり、開業を視野に入れて次のステップに進む勉強を本格的に取り組むことにしました」

上野氏は、漢方薬や鍼などの東洋医学と整形外科分野で注目を集めていたAKA療法（後述）の勉強を

本格的に開始。西洋医学と東洋医学を併用する診療所の開設に向け着々と準備を進め、08年、52歳で開業に踏み切った。

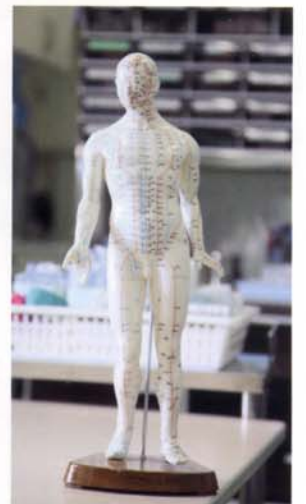
新しい治療法のAKAと 鍼灸を患者の症状に合わせて選択

実家を改装し、「漢方内科・整形外科」を標榜して開業したところ、受診患者の多くが腰やひざの痛みなど、整形外科分野の悩みを抱える人たちだった。

「当時、漢方内科を標榜しているのは鳥取県中部地区で当院だけで、本当は“漢方内科”一本で行こうかと思いました。しかし、この地域は高齢者が多く、主な産業は農業です。体を使って生活してきた人たちですので、痛みが出るのは当然です。患者さまの中には、「ほかの病院に行っていたけれど、痛みが取れない」と言ってくる方もいます。痛みを取るには、強い薬を使うのが一般的ですが、当院は、できるだけ強い薬を使わずに治療することを目標にしています。そのためにAKA療法や鍼などを取り入れています」。

整形外科は、痛みのある部分を撮影した後、がんや炎症など明らかな原因がなければ、痛み止めの注射や湿布薬などが処方するのが一般的。しかし、これらの対応だけで痛みが取れなければ不満に思う人がいるのも現実だ。

一方、上野医院では患部の撮影後、急性期的な治療が必要でなければAKA療法や鍼で対応している。AKA療法は博田節夫医師が開発した治療法で、関節運動学に基づき関節の遊び、関節面の滑り、回転、回旋などの関節包内運動の異常を治療する方法。上野氏は関節運動学的アプローチ医学会指導医の資格を取得しており、患者の中にはAKA療法の効果を知り、隣の鳥





ウォーターマッサージ器を2台設置。



診察後は処置室で鍼や吸い玉治療を行う。



鍼や吸い玉を使用し、患者の痛みを和らげる。



根や岡山などから受診されている人もいます。

また、上野氏は鍼灸の資格も取得し、治療へ積極的に取り入れている。「慢性的な痛みには鍼の方が効果が現れやすい。吸い玉なども使いますし、当院は鍼灸院を西洋医学がフォローしているようなイメージでしょう。患者さまにとっても、その方が通いやすいという印象があるようです」

“舌”の継続的な観察により 患者の全身状態を把握し 生活改善を指導

同院の患者は、整形外科6割、漢方内科3割、大腸肛門科が1割という内訳になるという。いずれの診療科も女性が多いのが特徴で、患者全体の約8割を女性患者が占めている。漢方内科は、生理不順などの婦人科系疾患を得意とするため、必然的に女性患者は多くなる。しかし、大腸肛門科で女性患者が多いのは、同院の大きな特色だ。

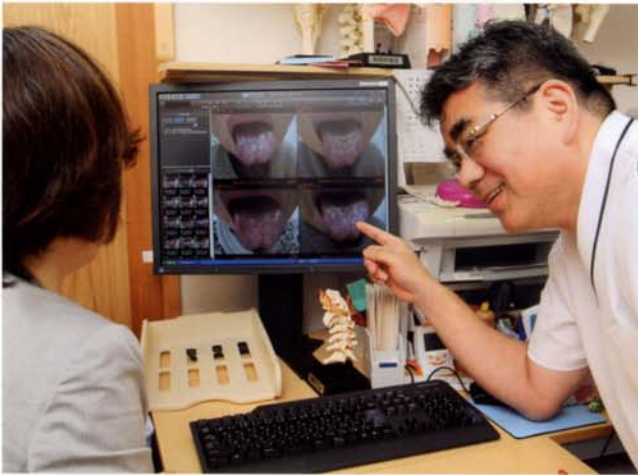
「女性は『痔で入院』とは言いづらいでしょうから、当院は基本的に日帰り手術で対応しています。症状にもよりますが、硬化剤の注射により、多くの患者さまが日帰り手術を適用できています。その他、爪の手術や女性に多い下肢静脈瘤も日帰りですみますので、当院を選択してくれているのだと思います」。

上野氏は、西洋医学と東洋医学を効果的に組み合わせ、患者のニーズにこたえるよう工夫している。

「当院の特色は、東洋医学を用いて全身状態を見た上で、痛みなどの症状に対処できることです。西洋医学も東洋医学も、どちらか一方だけではうまくいきません。全身状態を把握し、生活習慣を改善することで治療することもあるのです」

上野氏が脈をとり、舌の状態を観察し、患者の全身状態を把握する。そのうえで、患者に生活改善を促す指導を行うため、患者の満足度が高くなっているのだ。

「西洋医学では、脱水症状の観察程度でしか舌を診ませんが、東洋医学では、舌の状態を見る“舌診”は観察の基本です。舌の状態で熱がこもっているとか、



患者の舌を撮影し、継続的に状態を観察する。

血流が悪い、水分不足であるなどの全身状態がある程度予測できます。患者の舌の状態を見た上で、『冷たい飲み物は控えて』『睡眠を十分にとるように』などとアドバイスすると納得してもらいやすいようです」

診察室の壁には、「気虚」^{ききょ}「湿邪」^{しつじや}など、特徴的な6つの舌の状態を示す写真とイラストを掲示。生活改善のアドバイスをする際、高齢の患者でも理解しやすいように工夫している。また、治療が長期にわたりそうな患者の場合、舌の状態を撮影した画像を電子カルテに添付。初診時からの舌の状態を患者本人にも確認させることで、生活改善のモチベーションを持続させることにも役立っている。

「電子カルテを導入しているので、画像の保存が容易にできます。以前の写真と現在の写真を見比べながら患者さまと話をすると、患者さまも症状が改善していることが理解できます。特に高齢の患者さまは舌を通じて全身状態を診てもらえると感じているようです」

「舌を継続的に診る」ことは診療報酬上、何の点数にもならない。手間がかかるだけ無駄なようだが「受診したくなる」という動機づけの役割を果たす。患者が同院をかかりつけ医として認識することにより、継続的に受診し、定期的な検査など、診療報酬上のメリットにもつながっている。

「患者数は、開業時は1日50人程度でしたが、現在は70人程度に増えています。治療用ベッドの増加やリハビリルーム、待合室の拡張など、規模の拡大も考えな



舌の状態から全身状態を説明。

くてはいけない段階です。患者増は、西洋医学と東洋医学の併用が患者さまに受け入れられことを表していると思います。患者さま本人は不調なのに『検査結果は異常なし』と言われ、どうしていいかわからないという患者さまはたくさんいると思います。西洋医学だけでは治療効果が上がらない人を今後も助けていきたいと思っています」

clinic data



上野医院

〒682-0804

鳥取県倉吉市東昭和町38

TEL:0858-47-6555

<http://www.uenoclinic.jp/>

■診療科目:漢方内科、整形外科、肛門外科